

令和2年度 第4回府中市スポーツ推進計画検討協議会

日時：令和3年3月11日（木） 午後3時から

開催：府中駅北第2庁舎 3階会議室

形式：Web会議（CISCO Webex Meetings）

出席者：

<委員>

朝日マヤ、植竹照雄、植田悠太、佐藤美枝子、佐藤光宏、高峰 修、田口祐貴、
本田純子、吉松久美子（五十音順、敬称略）

<事務局>

文化スポーツ部長（関根）、スポーツ振興課長（市ノ川）、スポーツ推進係長（西井）、
スポーツ振興課職員（及川・高森）、株式会社創建（大谷、本多）、建築施設課文化・
スポーツ施設老朽化対策担当主幹（後藤）、文化・スポーツ施設老朽化対策担当主査
（奥）

欠席者：

<委員>

小島壽一郎（五十音順、敬称略）

—開式—

○会長

こんにちは。本日の委員の出席状況を事務局からお願いします。

○事務局

こんにちは。本日はお忙しいところ、本協議会にご出席を頂きましてありがとうございます。

本日の出席状況でございますが、委員定数10名の中、現時点で7名のご出席を頂いております。朝日委員・小島委員・佐藤委員もご出席と伺っております。後ほどご入室があると思いますので、よろしく願いいたします。

府中市スポーツ推進計画検討協議会規則の第4条の2項に基づく過半数のご出席がありますので、定足数を満たしておりますので、本日の会が有効に成立することをご報告申し上げます。

○会長

ありがとうございます。お手元のレジユメに沿いまして進めてまいります。

—会長挨拶—

○会長

それでは、2「事務局報告等」をお願いいたします。

○事務局

事務局から説明をさせていただきます。

まず本日の配付資料の確認と傍聴希望者についてご報告をいたします。事前に郵送させていただきました資料を確認させていただければと思います。

資料1「ヒアリング調査のまとめ」が、A4で2枚。続いて、資料2が、A4 1枚とA3 1枚。続きまして、資料3「計画骨子の議論の深堀りにむけて」が、A4で4枚。最後に、非公開資料で「第3回協議会議事要旨」がA4で2枚です。以上です。

次に、本日の傍聴人につきまして、3月1日付の「広報ふちゅう」で募集をいたしましたところ、1名の希望がございました。本日は、WEB会議の都合上、事務局と同室に傍聴者は入場していただくこととなりますが、許可をしてもよろしいでしょうか。

(異議等なし)

○事務局

ありがとうございます。事務局報告等は以上になります。

(傍聴者の入場)

○会長

資料確認と傍聴人の方についてのご報告でしたけれども、何かご質問等はございません

でしょうか。

それでは、質問等ないようですので、早速ですけれども、3の「議題」に移りたいと思います。まず、報告事項1にありました「第3回協議会の振り返り」について事務局から説明をお願いいたします。

○事務局

お手元の【参考資料】「第3回協議会議事要旨」及び第3回協議会の報告とともに事前送付いたしました「第3回協議会議事録」を御覧ください。

前回の協議会では、アンケート結果を受けて主な回答内容の確認と、計画骨子の策定に向けたご意見を頂戴いたしました。記載事項について、ご自身の発言箇所も含め、訂正が必要な箇所等がないかご確認をお願いいたします。なお、「第3回協議会議事要旨」につきましては、委員の皆様のお名前が記載されております資料であることから、第2回に引き続き非公開資料として取扱いをしております。また、第3回協議会の報告と併せて送付いたしました「第3回協議会議事録」は、録音した会議内容を文字起こしした資料でございます。本日の会議にて内容のご承認を頂いた上で、府中市のホームページ等で公開を予定していただいておりますので、誤り等ございましたら事務局までお申しつけください。以上です。

○会長

いかがでしょうか。それでは、修正等がありましたら、適宜申し出ていただくことにしたいと思います。

引き続きまして、次に報告事項の2「ヒアリング結果」について、こちらも事務局から説明をお願いします。

○事務局

それでは、「ヒアリング結果」についてご説明をいたします。資料1をお手元にご用意ください。よろしいでしょうか。

「ヒアリング調査のまとめ」では、アンケート調査と並行して実施してきたヒアリング

調査の概要とともに、骨子（案）検討の参考資料とするために要点をお示ししております。

1 ページを御覧ください。1 ページの「1. ヒアリング対象と項目」では、調査の目的と対象団体名及び項目をお示ししております。

次に「2. 調査項目とねらい」では、項目設定の詳細をお示ししております。

2 ページから 4 ページにかけては、「3. ヒアリングの要点」にて、回答した団体を伏せた上で、(1) 市民のスポーツ推進について、(2) 他の団体等との連携、(3) 課題、(4) 今後の展望、市・スポーツ施策への要望・意見等、の 4 つの視点から骨子

(案) 検討に参考となりそうな内容はそれぞれ抜き出してお示ししております。委員の皆様におかれましては、特に太字・波線の箇所を中心に御覧いただければと思います。

ここからは、要点を中心に支援業者の株式会社創建より補足説明をお願いいたします。

○創建

初めに、委員の皆様の中にもヒアリングにご協力いただいた方がいらっしゃいますが、その際はお時間頂きありがとうございました。大きく 4 点に分けてお伺いしてきたことを整理しています。この後ご説明させていただく計画の基本目標や、そこを設定していくプロセスの中で特に要点になるであろう部分を、A4 で都合 3 ページにまとめました。

(1) 市民のスポーツ推進について、これは皆様のお立場ですとか状況によって、市民のスポーツ推進という捉え方も様々であろうかと思えます。①としては、市内のスポーツ関係団体様の特に共通したご意向。②といたしましては、市内のトップチームの方からお伺いした内容をまとめております。また、③に庁内関係課ですとか障害者スポーツという文脈でお話をお伺いさせていただいた内容をまとめております。

まず市民のスポーツ精神を捉えるときに、市内のスポーツ関係団体におかれましては、コロナ禍また健康意識の高まりに応じて、スポーツの意識は高まっているのではないかと、またコロナ禍を経てスポーツ施設以外にて 1 人でやっている人は増えていることが予想されます。ただ一方で、市民のスポーツ精神と考えると、大会や発表の場等がなくなっていて、競技力向上のモチベーションが下がってきているという意見もお伺いできました。

市内トップチームの方にそういった話をお伺いしたところでは、地域体育館もあって、地域コミュニティにスポーツが根づいており、障害のある方のスポーツに対しても関心を持っている人は少なくないだろうとのことでした。また、実施率の高さを市内トップチームの方もある程度認識されている状況がありました。

その他団体等というところで、府中市内の関係各課にお伺いした中でも、身近な場所でスポーツ実施している人は増えてきているのではないかという話もありました。

次に(2)ですが、ほかの団体との連携では、市内スポーツ関係団体から、①の連携というのが市全体で効果的に機能する仕組みというのはまだ課題が出てきます。例えば連絡情報共有の体制整備等が十分に機能していません。特に前回もご意見あったと思うのですが、市内にかなり豊かなスポーツに関連した資源がある中で、効果的に連携する体制等はまだまだ出来ていないのかなというところがありました。市内トップチームにおかれましては、市と連携の土壌はあるのですが、そもそものビジョンを共有するところも、もう一歩あることが望ましいという話が共通して出ております。

③では庁内、スポーツ振興課以外の管理職にお伺いしたときには、地域経済の活性化やまちの魅力向上も見据えながらの連携というのが、より一層重要になってくるという話は共通して挙げられました。

(3)にてアンケートから出てくる課題ではなくて、生の声・肌感覚での課題意識というのを伺いさせていただくと、連携・協働を考えたときに、誰がどういう視点でどう連携していくか、また、どういうビジョンを共有しながら進んでいくかが多く挙がりました。前回スポーツタウン府中という考え方に対してのご意見も頂いていたと思うのですが、連携していくに当たっての立ち位置や役割は整理できるのが望ましいとのことでした。それと、こちら前回ご意見ありましたが、無関心層・関心層・やろうと思っていない方・やりたけれどできていない方、そういったところの行動を変えていくということも、次の計画においても課題であろうということが出ております。

そのほか、情報が届いていなくて、何かイベントをやり終わった後に、事前に知っていればやりたかったという話も出てきていて、これはトップチームのほうでもご意見頂いていたところですが、情報を必要な人にうまく届けるような発信の仕方が求められています。②に移りまして、単発で終わらないように、また継続的に市民に伝えていくことが必要だ

というお話が共通して挙がりました。

あと、③の太線に挙げさせていただいたのは、いろいろな人がスポーツに関わっていく、情報を得てやりたい人がやれるようにするときに、障害のある方も含めてのインクルーシブなまち・地域づくりにスポーツを活用できるとよいし、オリンピック・パラリンピックのレガシーの中でも共生社会の実現は、今後計画策定する際の課題になってくるだろうとのご意見がありました。

それ以外に喫緊の課題というところでは、府中市は多様なスポーツ施設がある中で、各施設の老朽化対策や長寿命化の対策も必須になってきます。行政だけでやりきれない部分では、民間活力の導入や地域経済の活性化・まちづくりを見据えて、施設を長い目線でよりよいものにしていく視点で、民間との連携が重要なポイントになってくるだろうということも、課題の中でお伺いした内容です。

今後の展望等、ほかに何かという流れでお伺いした中で、地域コミュニティの中でスポーツを推進していくとなると、地域体育館や文化センターの補強が重要になるとのご意見がありました。また、新しいスポーツの取組、新しい人に関心を持ってもらうきっかけを作っていくことが必要だというご意見の中で、特に初めて取り組むことでは、どうしても参加者数が少ない状況があります。事業評価する中で参加者数が少ないからもうその事業の取組はよくないと結論付ける評価ではなく、新しい取組で新しいスポーツに興味を持った人ができたこと自体をしっかり評価するような、アウトプットではなくてアウトカムの視点で評価する仕組みが今後計画の中では重要になってくるであろうというお話がありました。

②市内トップチームでは、トップチームは基本的には民間事業者というお立場になろうかと思います。そういった中で、行政は何を求めているのか、逆に民間は何ができるのか、そういったところも整理して、役割分担をしながら大きなビジョンを共有できたらという話はございました。

最後に、その他団体等というところでも、やはり障害の有無にかかわらず、誰もがスポーツを楽しめるような環境整備というのは重要になってくるだろうという視点もありました。また、機運やコミュニティを醸成していくというのは、まちの魅力につながって、スポーツの力を活用した地域の活性化や魅力向上に向けて、民間と行政の役割について明確

なビジョンを共有しつつ、スポーツ施策を推進していけるとよいというお話を頂いております。

太字で波線引いたところを中心に雑駁にご説明しましたが、細かい部分は読み解いていただきながら、後ほどご意見等あれば、意見交換の中で中身を詰めていきたいと思っておりますので、説明は以上とさせていただきます。

○会長

まず事務局のほうから創建も含めて説明いただきました。今のご報告の中で確認したいこと、ご質問等々があったら受けたいと思っております。

では、創建本多様へ、4枚目にアウトプットだけではなくてアウトカムの視点で評価という表現があったのですけれども、ここを少し補足で説明していただけますか。

○創建

新しい取組をして参加者数が少ないという状況を考えますと、今までなら、例えばですが、スポーツイベントの参加者数を増やそうという目標に対して、以前は100人来たから次に200人になると、2倍の成果が出たねという評価でした。単純に数字が増えたら、それだけ成果が上がったという考え方がアウトプットによる評価です。ただし、市民の行動や意識を変えていきたいという目標の中では、必ずしも参加者数だけで測れるものではありません。

例えば新しいニュースポーツの体験会をやった時に、初めは参加者数5人だったとすると、別のイベントで子ども向けのイベントをやったら、参加者数100人いた時に、5と100で、5のほうは意味がないのではないかという考え方が、アウトプット視点の評価では出てきます。

ただ、根本のところ、新しいスポーツに関心を持ってもらうきっかけを作ることに對する評価というのは、やはり数字だけでは評価されるものではないという考えの中で、新しいスポーツに興味を持った人が5人出て、もしその5人が友達に口コミで広げていくと、参加者数としては5人かもしれないですが、情報は5人より多くの人に行きわたります。そうするとそのイベントの参加者数ではなくて、新しいスポーツに関心を持つ市民が増え

たことは潜在的に更に広がる可能性があるかもしれません。今回5人で参加者数が少なく意味がないのでこのイベントはやめようという考え方から、市民の意識が変わったこと自体を評価するようになれば、それがアウトカムでの評価の仕方と捉えることができます。

なので、その計画の評価、1つはスポーツ実施率の向上・変化を見ていくというのも、もちろん外せない部分ですが、例えば新しいスポーツ等に対しては、必ずしも数字の上げ下げで1・2年ごとに評価するのではないという考え方も計画の中では重要になってくるというご意見がヒアリングの中で出てきました。次の計画をどういうものにするかといったときには、どの数字がという話ではなく、評価の仕方というのをちょっと改めて見直してもいいのではないかという話が出ていたことから、アウトプットじゃなくてアウトカムと申しあげた経緯がございます。以上です。

○会長

ありがとうございます。単純に数字がよくないから評価が低いという話ではなく、もうちょっと内情を丁寧に見ていこうという、視点が少し変わって広がってきたということではないかと思います。

そこも含めまして他の方からいかがでしょう。

○委員

2ページのその他団体等の一番下の丸で、スポーツツーリズムの機運ができてきていると感じると、庁内関係課の方がおっしゃっているのですが、具体的にイベントを実施したのでしょうか。

○創建

どの団体がというのは伏せる前提になってしまうのですが、コロナ禍でユーチューバーと連携しながら、ウォーキング・散歩をしてみましようという取組をされています。コロナ禍も踏まえてなのですけど、観光の観点からまち中を歩いてみて、スポーツともひもづいてくるような取組に意外と反応があったようで、スポーツと観光・ツーリズムみたいなものでリンクして考えるお話がありました。まち歩き等は、観光資源を回ってみようみた

いなところでも、結構盛り上がりがあったようで、観光と連携して考えたときに、スポーツツーリズムが機運の素地みたいなものは見えてきているという話がありました。

○委員

ありがとうございました。府中は歴史が深いところなので、十分にこれからも活用できると思います。

○会長

そのほかいかがでしょうか。

○委員

いろいろな団体から出されたご意見で、それぞれが横のつながりを求めていると思います。そうすると、ここでヒアリングの対象になりました15の団体、プラス大学なども含めて、連絡協議会みたいなのを作って、それぞれの強みとといいますか、そういうものを持ち寄らないと、やっぱりなかなか前に進まないのではないかなという印象を持ちます。それぞれ地域に強いところというのは、スポーツ推進委員の方々や地域スポーツクラブが強みを持つわけですね。ですけど、トップチームの方々は、魅力的な競技力やスポーツの美しさ等を強みに持っておられるのですけれども、つながらないというのは、そこでお互いの弱み強みを持ち寄りながらやらないと、なかなか全体には広がっていかないよう思っています。福祉協議会は、いろいろなつながりを持っておられます。例えばトップチームと福祉協議会の方々が一緒になって何かやるとかですね、そういうコラボレーションができるような雰囲気を作る必要があるかもしれないとの印象を受けます。以上です。

○会長

ありがとうございます。今回のヒアリングの報告で、随所にいろいろ連携という言葉が出てきますけれども、これについて委員からご意見いただきました。これについて何かご意見ございますか。

○委員

ありがとうございます。同じような意見にはなるのですが、関心がある方は積極的に情報を拾い、自分からアプローチします。いわゆる無関心層とかそこまでアンテナを張っていない方々へのアプローチというところは加速できるところで、その辺の工夫が、特に行政関連のイベント告知については、我々チームのほうと比較して、チーム独自よりちょっと弱く感じたりするところがあるので、その辺りの工夫といいますか、取り組み方も課題になってくるかなという感じがします。

○会長

ありがとうございます。連携に加えて、情報発信ですね。ありがとうございます。

先ほどの連携に関してなのですけども、これは事務局に伺いたいのですが、スポーツに関して、市内のいろいろなスポーツ関連団体、組織がコミュニケーションを取るような場というのは、今のところできていないという認識でよろしいですか。

○事務局

一般の方々が入って、そこに市がサポートしているというところはありますけれども、今ご意見にあったような横連携だとか、トップリーグについては、今のところ連携の体制がまだありません。今後はそれも検討して、計画を作ってまいります。

○会長

ありがとうございます。これは大きな1つの核になるかもしれませんね。その他、よろしいでしょうか。

それでは、このヒアリングも含めまして、次に計画の具体的な話になっていきますので、協議事項の3「計画骨子の策定に向けて」に移ります。それでは、事務局から説明をお願いします。

○事務局

それでは、「計画骨子の策定に向けて」について、ご説明をいたします。事務局からは、

資料2及び資料3について一括でご説明をいたします。

まず、資料の2、1ページ目の次期計画の骨子（案）につきましては、前回第3回協議会でお示しいたしました体系案のイメージについて、委員の皆様から頂いたご意見や、これまでの市の取組状況などから整理をしたものでございます。基本理念ではスポーツタウン府中の発展とし、基本目標では【そだてる】【ささえる】【する】【みる】の視点を基に作成をいたしました。基本施策では、基本目標に対応させた上で、取組（案）にて具体的な事業内容をお示ししております。なお、本来であれば基本施策の数に対応して取組（案）の内容を検討していくものかと思いますが、現在は計画の全体構成を検討している段階ですので、イメージとして1つのボックスに案を記載しております。

1の【そだてる】につきましては、市民アンケートの実施結果等から、市内のスポーツ実施率が高いことが分かっておりますので、市民の主体的な活動から実施率が高まっている現在の状況をSDGs等も鑑みて持続させつつ、さらに地域スポーツを発展させることを目的に基本目標としております。また、東京都スポーツ推進総合計画等では【する】【みる】【ささえる】の順番で多く採用されておりますが、府中市では、そこに【そだてる】を最初に位置づけることで、【ささえる】【する】【みる】施策を展開していくように想定しております。

次に2ページ目では、4つの基本目標が単独で存在するのではなく、相互に関連することを図示しております。

次に3ページ目をお開きください。基本目標の整理に当たりまして、市のこれまでの取組、アンケート調査結果及びヒアリング調査結果により、課題と対応の方向性を整理した上で、基本目標を設定したプロセスを示しております。

続きまして、資料3につきましては、計画骨子の議論を深めていただくために作成いたしました。アンケート結果のクロス集計及び関連計画との連携をお示ししております。

事務局からの説明は以上になりますが、創建から補足の説明をしていただきます。

○創建

特に注力してお目通ししていただきたいものとして、A3の資料をお手元にご用意ください。次期計画の大きな目標4つを、【そだてる】【ささえる】【する】【みる】という視点

から検討を進めてまいりました。そのプロセスをなるべく端的にお示しするためご用意したものが、このA3のペーパーです。一番右に4つの目標を整理しておりますが、そこにはどのようなプロセスを経てそこにたどり着いたのかを、左から右にご覧いただくよう要点を絞って整理したものになります。一番左には、大きくボックスを3つ用意しています。一番上は、第1回・第2回と資料の中でお示ししてきた府中市の総合計画の考え方の要点を、紙面の都合もあり1つに絞っております。府中市総合計画の中では、スポーツの生活化というのを最上位計画において、文言で表記しております。全ての市民がスポーツできるように施設を整備するといった考え方の中で、日常生活の中でスポーツを楽しむために、1つは地域体育館整備している状況というのが市の全体の考え方の中にございます。

上から2番目のボックスは、アンケート調査の結果です。これは前回お示したのものになるのですが、実施率がそこまで低くない状況です。またコロナによって意識や行動が変化した市民が40%に及んでおり、アンケートの要点を絞った上で、一番下のボックスで、ヒアリングをさらに凝縮していくと、スポーツは楽しむことができている一方で、関係団体をフラットにつなぐようなものというのがなかなかない状況です。継続的に情報交換、共有する体制があるとより良いという話や、スポーツの力を活用して共生社会の実現に取り組んだまちづくり等、また評価というものもアウトプットだけではなくてアウトカムで評価できると良いとのご意見を記載しております。特にお目通しいただきたいのが、2列目、現状でアンケート調査・ヒアリングを踏まえて、この計画においてはどのようなところに着目して、課題と対応の方向性をもてばいいのか考え、大きく5つのボックスで整理をしております。特に優先順位があるものではないので附番はしておりません。

まず一番上のボックスは、スポーツをやっている人がそこまで少なくないという状況を鑑みると、より一層心身ともに充実した生活を送っていけるということが重要になってまいります。黒い三角が矢印のイメージで、そういう充実した生活を送る市民を増やしていくために、どういうことをしていくかと考え、2点整理させていただきました。

1つは、スポーツ実施率を引き続き維持することです。東京都においては70%という目標値があるので、10ポイント増ぐらいを目指していくというのは1つかなと思ひ、少なくとも実施率が60%辺りにいるという現状の維持が重要になってまいります。とはいえ無関心層が一定数いるという状況や、またやりたくてもやれていない方もいらっしゃることも

ございますので、関心を喚起する、行動を変えていくというのも引き続き重要な視点であろうと考えます。【する】【みる】【ささえる】の視点で市民のスポーツを推進していくのですが、次世代に引き継ぐ考え方も計画の中では重要です。そうなってくると【する】【みる】【ささえる】ではなくて【そだてる】という視点が重要というのが出てきた中で、大きく基本目標は4つ副題的についているという状況です。

次に、上から2つ目のボックスです。これまでも府中市は、施設の整備に力を入れてやってきたのですが、より長い視点で見て、また今ある施設を効果的に効率的に引き続き使っていくとなると、場合によっては、施設統合・配置検討は考えざるを得ない状況もあります。対応の方向性としては、長寿命化は必須になるのですが、全部が全部新設というのはなかなか難しいので、その際においては、民間活力の導入というのもしっかり検討しておけるとよいと考えます。そうなってくると、スポーツ振興課・スポーツ推進計画だけの話ではなくなってくるので、庁内関係各課の連携、情報共有というのにも必要になってまいります。こういったものもスポーツ推進計画の、特に施設整備の部分においては、課題であり今後ちょっと一歩踏み込んだ対応を考えていく必要があるというのもございました。

上から3番目のボックスです。施設にも関わってくるのですが、市民の誰もがスポーツを身近に感じられる状況というのは、より一層力を入れて作っていかねばなりません。誰もがというのは、年齢・性別・障害の有無にかかわらずという視点です。そういった環境を充実していくというのは、施設の部分もあろうかとは思いますが、特にソフトの部分でサービスや、場合によっては市民の方の意識等、ハードだけではなく誰もがスポーツを身近に感じられるような環境を充実していくことが重要です。サービスの面においても、場合によっては民間の活力の導入というのは重要な視点になってきます。また、身近に感じるという中で、イベントはあったのに知らなかったみたいな話が出てくると、やはり求める人に適切に情報を届けていくような工夫というの、誰もが身近に感じるという視点では重要になってくるであろうという流れが、このプロセスの中で出てきております。

上から4つ目のボックスです。いろいろな人がいらっしゃる中で、効果的に連携していくために、何のために連携するのか、どういうビジョンを選ぶのか、それがしっかり共有できるのか、共有できたら誰が何をやるのか、そういったところの整理というのは、ヒアリングも特に中心に課題としてあげられてきたと認識しております。なので、次の計画においては

多様な主体と書かせていただいたのですが、皆さんが共有できる理念というのを、スポーツタウン府中をより浸透させるような取組というのは必要になってきます。また、そういった連携・協働を推進する中、しっかりコーディネートしていきながら、意識を共有していくということも、連携という視点では重要になるだろうということも課題と対応の方向性として整理しています。

最後に一番下のボックスで、スポーツというのは、いろいろな力があるという話の中で、府中市において、地域内の協働を促進して、未来・次世代へ向けて、スポーツを通じた文化をつくり上げていく視点で、次の計画を考え直していくものです。市内のトップチームと、どういう形で相乗効果を生み出していくか、またビジョンを共有していくということは重要です。また、ビジョンを共有したときに、まちづくり・地域づくりというところまで見据えていけたら、未来につながるスポーツ文化になってくるであろうということも議論しておりました。

また、赤字で2点記載しており、第1回のときにご議論いただいたかと思うのですが、例えばeスポーツであったりアーバンスポーツであったり、そういったものもスポーツ文化をしっかりと作っていくことを考えると、改めて重要になってまいります。ただeスポーツがどうか個別の議論は、この協議会では馴染まないと考えておりますので、やはり生活の実態に即した、場合によってはeスポーツ、アーバンスポーツという着眼点で新しいスポーツの在り方も検討していくことは未来に向けたスポーツ文化を作っていく上では、もう一步踏み込んでいく必要があるということで追加しています。

ここから右に矢印を、区別がつくように種類を分けて書いております。例えば一番上のボックスというのは、【そだてる】の1につながっています。これは1、2、3、4全部につながっているという矢印になります。上から2番目のボックスに関しては、特に3番目のスポーツの場の整備・充実につながっているということで、基本的に矢印が向いていないところに関わっていないというわけではないのですが、特にこういうところにリンクしているのに線を引いていって、これまでの議論、これまで出たデータ、課題対応の方向性というのが、どこの基本目標にリンクしているかというのを図示したのになります。

今日ご意見頂ければと思うのが、課題意識とそれに対する対応にこういう視点がまだ入っていないのではないかとか、そもそもこういうことをもう少し課題の中で深掘りしたほ

うがいいのではないかと、そういったところのご意見を頂きながら、全体構成の精度を上げていければと思っております。よろしく願いいたします。説明は以上です。

○事務局

若干補足ですが、今ご説明いただいた中で、一番下のボックスの新たなスポーツの在り方を検討するということです。e スポーツのお話もあったのですが、それ以外にもここでオリパラやラグビーもそうですが、レガシーとして今後どう引き継いでいくかということが含まれます。あとは、せっかくコロナ禍についての質問もアンケートを取りましたので、アフターコロナの中で自分に合った運動の仕方を新たに見つけられた方もいらっしゃると思います。だからこそ、実施率が思ったより下がっていないで、逆に上がっているという現状を見ると、そういったところも踏まえて新たなスポーツとの関わり方、あり方というものも併せて、ここで検討できればなと考えております。以上です。

○会長

分かりました。今まで長い時間かけてアンケートとヒアリング等行ってきて、それを経て今回の計画骨子の提案ということになります。この件が今日の協議会の一番メインの話になりますし、時間的にもまだ余裕ありますので、少し落ち着いて検討していきたいと思えます。資料については、資料の2「基本目標の整理のプロセス」です。検討していただいて、何か思いつかれたら自由に発言してください。

○委員

1つ質問してもよろしいでしょうか。

○会長

お願いいたします。

○委員

A3の大きな紙の真ん中、課題と対応の方向性ということで示していただいていますけ

れども、2番目の四角についてですが、府中市において、学校もそうですがスポーツ施設も含めて老朽化対策というのが喫緊の課題ということで、今、問題になっていると思います。2番目の中に、施設の老朽化対策、それについて「民間活力の導入もポイントとなる」とあるのですけれども、具体的にどのようなことを想定とか期待していらっしゃるのかというのをちょっと聞きたいなということがあります。同じく3つ目の四角の中にも、「サービス面での民間活力の導入が重要な視点になる」という部分が書かれているわけですが、この点についても、どういうところを民間に求めているのかということ併せて聞かせていただくとありがたいと思っています。民間を頼るとよく言葉としては使うのですけれども、民間としてはうまみがないとなかなか手が出しづらいところもあると思うのですけれども、その辺についてちょっと教えていただければと思います。以上です。

○会長

こちらは事務局のほうから回答お願いできますか。

○事務局

民間活力の導入活用といいますか、今、代表的なところでいいますと、指定管理者制度・PFI事業、そういった手法がありますので、事業者の思い描く理想像や採算性を求めた中で提案をしていただくことにはなるのですけれども、やはりなかなか行政だけだと考え方が凝り固まってしまう、民間事業者の方が新しい事業展開の方法等、早く有効なものがあるので、積極的に取り組んでいこうというところで、民間活力の活用というところが、一般的にスポーツだけではなくほかの分野でも言われているかと思います。

スポーツに関して言えば、府中市のスポーツ施設、結構全てが老朽化してきているので、スポーツ施設について、老朽化対策の担当もおりまして、検討しているところです。内容としては計画的保全・長寿命化するにはどうしたらいいか、逆にもう古くて改修等が難しいものについては、廃棄処分も含めて検討していきましょうという内容です。その際にまた新たに建てる、改修・改築するという際には、市の考え方だけではなくて、先ほど申し上げたような指定管理者制度ですとか、様々提案を頂くような手法を用いて、より市民の方にご利用いただきやすい形にしていければと、全体としてはそういう考え方になってい

ます。以上です。

○委員

大体市の考え方というか、期待しているところについては理解できました。ありがとうございます。

○会長

行政と民間との連携というのは、ここ10年ぐらい大きな課題になっていまして、いろいろな試みがあります。指定管理というのもその1つですけれども。そういうことを積極的にこの後は考えていくという方向でよろしいのでしょうか。

○事務局

おっしゃっていただいたとおりです。

○会長

ここで言う民間というのは、必ずしも企業だけではないと考えていいのでしょうか。非行政といいますか、団体組織を含んでいるということでしょうか。

○事務局

スポーツだけに限らず、そういった手法を採用しようとしているところについては、1社専門の業者だけではなくて、例えば幾つかの専門業者さんが組んで、JVを組んでご提案いただく場合もありますし、その内訳として株式もあれば様々な一般財团的なもの、NPO等も含めて、提案の範囲としてはお認めしている場合もありますので、特に株式とかそういった営利目的というところだけに特定しているわけではありません。

○会長

分かりました。特にハードのときには、やっぱり一般企業が対象になると思うのですが、ソフトになってくると、いろいろな法人とかNPOとか、そういった組織との関わり

も必要になってくるのではないかと思います。ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

○委員

実は浅間町の米軍跡地の開発のところを、今回の推進計画で視野に入れているかお聞きしたいです。

なぜそんな話をするかといいますと、浅間町の米軍跡地のところは市の中心ですし、新しく作るのであれば、eスポーツだとか、あるいは新しくバスケットボールの公式試合ができるだとか、いろいろアイデアが盛り込めるのではないかと思います。なので、新しい今度の推進計画の中にそんなことも視野に入れた計画を立てられるのかなど、興味があるところです。いかがでしょうか。

○事務局

あくまで現状としてのお話として聞いていただければと思います。浅間町にあります基地跡地留保地につきましては、市のほうでも市議会のほうに特別委員会を作って今、検討しているところです。その中でスポーツ施設をどうするかというところについても、おっしゃるように議論をしているところです。その内容をこのスポーツ推進計画のほうに入れ込んでいくかどうか、また特に具体的な話題としては、総合体育館の機能をそこに移転するかどうかということも含めて、これから検討していかなければいけない状況にはなっております。

ですので、今がちょうどその計画を作るに当たっては、検討して入れていくにはちょうどいい時期かなと思っております。細かいところまでは、この計画には入らないかもしれないのですが、大きなコンセプトとして基地跡地にスポーツ施設を整備するに当たっては、こういうコンセプトを持って今後検討してほしいということは書けるかと思います。委細詳細については、この計画だけではなくほかの様々な計画にも影響する話になってきますので、あくまでスポーツ視点からこういう形で、市のスポーツ施策としては土地の開発について考えているということを入れることは可能だと思います。詳細等の細かい機能はどうしよう、これは何を作ろうというのは、もう一歩先に進んで、コンセプト計画を特化し

てまた別に作るようかなと思っていますので、まずは今回の推進計画の中で大きなコンセプトを取り込んでいけるような形でご議論いただけると幸いです。以上です。

○委員

そうすると、先ほどの課題と対応の方向性という目標がございましたけれども、2番目と一番下辺りは結構関係するのではないかと思います。新しい浅間町の米軍跡地の問題もどういうふうにスポーツ施設、運動施設を作るかということとリンクするような気がします。ですので、その辺をうまく全体的な計画との整合性も含めて作っていったらいいかなと考えます。

○事務局

ありがとうございます。おっしゃっていただいたような形に近い流れになっていくのだろうと事務局も考えております。以上です。

○会長

ありがとうございます。土地とか建物については、なかなかここで決められるものではありませんけれども、少なくともここで今からスポーツ推進計画を立てるところです。そこに埋め込んでおかないと、実際何かあったときに話が動かないというのも確かなのではないかと思います。恐らく事務局のほうは今のご意見は承知されていると思いますので、そこも踏まえてこの後計画というのを作っていきたいと思います。ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

○委員

課題と対応の方向性の一番下の赤字のところの、「新たなスポーツのあり方を検討」ということで、先ほどからeスポーツとアーバンスポーツ、またはオリパラのレガシーとお話が出ていたのですけれども、例えばこの新しいスポーツの在り方の中に、世の中賛否両論あるのですけれども、金銭的にインセンティブ策として、今、健康ポイント制度を取り入

れている行政とかも多く見受けられるのですけれども、例えばそういうことは市としては、検討の中に入るのでしょうか。

○会長

事務局の回答の前に、今の健康ポイント制度について、皆さんにもうちょっと紹介していただいていいですか。

○委員

健康づくりの一環として、健康ポイント制度を導入している行政が幾つかあります。この健康ポイント制度というのは、無関心層とかの方々の行動変容の1つとして取り入れているのですけれども、例えば健康についてはエビデンスに基づいた健康運動とかやった方に対してポイントを付与していく。そのポイントが例えば運動をたくさんやって10ポイントたまった方に関しては、10ポイントたまったポイントの使い道として、例えばラグビーのゲームの招待券をあげますとか、やはり何か魅力がないと運動しない方に関しては、割ととっつきやすいのかなというのがあるのですが。こんな説明でいいですか。

○会長

結構です。いかがでしょう。皆さん概要はなんとなくお分かりいただけるでしょうか。ただ単に自分が個人でやっているのではなくて、それを少しポイント的にして、なおかつ、それをポイントにインセンティブというかご褒美みたいなのを付与するようなシステムを作るというのが試みとしてあるということなのですから、そういったことを今回このような形で入れていくことが可能かということですね。このような形で事務局から回答いただけますか。

○事務局

できるかできないかは別にしているいろいろな方法があつていいと思います。きっかけとしてどんなものになるか、どんなものでも私は構わないと思います。ただ、それを続けていくことが多分一番大事だと思います。それをきっかけで始めたことで、ポイントが目的に

なるのか、体を動かすことが目的になるのかは、その方々によって違うかもしれません。目立つところとしてそれをきっかけで始めたけど、ポイントがつかなくなっても続けてもらうのが一番だと思うのですね。その辺りのところを、市だけではなく、そういったところのご議論を頂いて、じゃあ府中市でもやってみようよということになれば、入れていくことは可能だと思います。ただ、何を以てインセンティブとするかは、ちょっとお金のかかるところ、かからないこと、ご協力いただけること、いろいろあると思います。それはそれとして、ポイント制度が有効かどうか、皆さんの中で、こうやったら有効ではないか、逆に物につられるのはよくないよというのであれば、そういうご意見も1つだと思います。そこは逆にご議論いただいて、皆さんの意見として我々も承った上で、最終的に決めていくことは必要かなと思います。以上です。

○委員

ありがとうございます。創建で、ポイント制度を導入している行政についての何か情報はあるのでしょうか。

○創建

制度に関して、前やっていたとお伺いすることはあります。ただ、気になっている点を申し上げさせていただきますと、健康というのがこの計画において、第1目標に上がってくるのかというところは、議論のポイントになるかなと考えています。市民の方の健康増進に関しましては、資料3の最後のページに、関連計画というところで、ちょうど今、健康推進課が、いわゆる健康増進に係る計画というのを策定しております。市民の方の健康増進をするにはそういった計画があって、健康を推進する目標は、1個そういう計画があるという状況です。スポーツ推進においては、健康というのはゴールに近いところに絶対あるものだとは思いますが、私見になるのですが、スポーツ推進という観点に立てば、健康というのは副産物というか、スポーツをした結果、健康になって友達ができて、友達の輪が広がって、まちが魅力的になっていって、その延長でラグビーチームが強い、という状況がスポーツタウン府中のビジョンのひとつであるとすれば、インセンティブを得ることが目的になってしまうと、ちょっとスポーツ推進の文脈のゴールとはちょっと違うと

ころに行ってしまうのかなという観点もございます。健康というのがどのぐらいゴールの中心に位置するのかの考え方によって、スポーツ推進のほうで健康ポイント制度があったほうがいいのか、それはちょっとずれてくるかが議論のポイントになってくるかもしれません。なので、スポーツ推進計画の中であったらいいという話もよく耳にさせていただくことはあるのですが、なかなかそれがどうという議論は、ちょっと違うところに議論の土台があるのかなと、そう認識しているところです。

○委員

ありがとうございました。

○会長

今の健康ポイントは、かなり具体的な案になると思います。具体的な案はいろいろあると思いますので、それを遠慮なく出していただいて、今回の計画に適用する可能性があるのかというのは、事務局のほうでストックしていただいて、いろいろ検討していただけるといいと思います。健康ということについても、これもなかなか難しく、あまり競技的なスポーツから、少しソフトないろいろなスポーツにシフトしていきましょうという流れに入ってきていますので、もちろん健康は、そこへの大きなポイントではあると思うのですね。でも、これ行政の中で言うと、健康推進課というのもあって、そことの関係が必要になってくるという部分です。ある意味役所内の連携ということで、別々にアプローチしても無駄な部分というのが出てきますので、そこで調整というのはやはり必要になってくると思うのです。

そのほかいかがでしょう。では、ちょっと細かい話になってしまうのですが、私のほうから何点か論点といいますか、この後、検討していただきたい点を挙げたいと思います。

先ほどお話しましたアンケートの報告書、こちらの中で少し気になった点を何点かお話ししたいと思います。1つは、小中学生の運動実施率の低さということがあります。もしお手元に報告書がありましたら、1つは23ページですね。これが小学生のスポーツを行った日数、実施頻度のデータになります。もう1つは34ページ。こちらは中学生のほう

の結果になります。これに類するデータということで、同じ条件での調査というのはなかなかありませんので、条件が多少違うのですけれども、全国で行われている例えば笹川スポーツ財団の調査を見ますと、例えば23ページ、小学生に関して、円グラフの左下に週1日以上スポーツ実施率85%。これが府中のまちですけれども、全国では92%なのです。ただし、そちらのデータというのは、5年生と6年生も含めてのデータになっております。

一方、中学生のほうです。こちらのほうは、1日以上スポーツ実施率だけ見ますと、全国の値よりも88.7%、やや高いという値なのですけれども、円グラフの中で週に3日以上、府中に関しては70%ですけれども、これ全国の値は76%だったりするわけです。なので、ややこういう小学生、中学生で、まさにこの子たちが将来府中のスポーツを担っていく。そういった意味では、【そだてる】という意味ではしっかり対象になっていくと思います。スポーツ実施に関しては、やや低調な部分なのかなということがあります。これについては、さらに男子と女子で微妙に違うのかといった追加の分析も必要ではないのかと思います。これがまず1点です。

雑多な説明で申し訳ないのですけれども、いかがでしょう。この点について何か学校現場でお気づきの点ということはいかがでしょうか。

○委員

小学生と中学生での数値の違いについて言えば、簡単に言うと、中学校の部活動の実施というところが、一番大きく数値が高いところについては、3日以上ですね、影響を与えていると思います。ただ今の段階で言うと、文科省とか都のほうからは、部活動は控える方向に今、流れとしては動いていますので、今のルールとしましては、土日のどちらかは休みます。平日も5日間のうち4日、要するに1日は休むというのが基本のルールになっていますので、数年前に比べると、日数的に言うと、少し減少傾向というのが全体的な、東京だけではなくて、日本全国的にそういう流れになっていると思います。

先ほどありました男女の比率で言うと、現在取っていないのですけれども、恐らく女子のほうが低い結果が出ると予測がされます。答えになっているかどうか分からないですが、以上です。

○会長

ありがとうございます。ですので、この点をどう考えていくかというのも、基本計画の中のどこかに位置づけなくてはいけないかなと考えています。今の小学生、中学生の運動実施について、何か質問とかご意見ありますか。

○委員

主に質問ですけれども、今、話題に挙げた小中学生の運動ということについて、スポーツ振興課のほうと、いわゆる教育委員会での連携あるいはやり取りなんていうのは、日常的には行われているのでしょうか。

○事務局

教育委員会の例えば指導室ですとか、そういったところとの連携を取っているかということで、日常的に取っているわけではないですけれども、指導室はじめ学校施設課とは折を見てお話ししているところです。特に関わりが深いのは、学校施設課と学校開放事業のお話はさせていただいて、授業以外の例えば小学校の野球チームだとかサッカーチームだとか、そういった活動については、お話をよくさせていただいております。学校の授業そのものに関する運動、スポーツについては、多分指導室のほうとお話をするようになるのですが、今のところ、先ほど先生おっしゃったように、少し部活動の制限、活動日だとかそういったところの話については、情報を頂いているところではありますが、それについてどう対応して、スポーツ振興課としてこういうお願いをしているということまでは、現状ではございません。

○委員

学校開放事業の夜間開放については、主に大人が対象の、中学生はほとんど絡まないような取組に多分なっていると思います。また、ここでちょっと話題が変わってしまいますけど、令和5年度から文科省のほうが言っている部活動を地域に移すということで、教員が働き方改革も含めて関わらないという動きも出ているので、ここ数年で学校のそういう

部活動の在り方というのが大きく変わってくると思うので、ぜひその辺については連携を取っていただきながら進めていただけると、今後スポーツ推進についても何かしら生きる部分が出てくると思います。よろしくお願ひしたいと思ひます。

○事務局

補足で言ひますと、学校での部活が縮小化して行く中で、地域の人材をうまく使つて部活動での指導について、例えば土日とか夜間についてはこういう形でという地域の資源をうまく使つてという、そういう方向をしていきたいというお話しが出て居るのは、私どもも承知して居ますので、そういう意味で、【そだてる】とか【ささえる】というコンセプトの中に、そういったところも今後検討していかなければいけないのかなと今、思ひます。ちょっと具体的にどの例えばボランティアを使おうとか、どの団体を使おうとかという話まではまだ考へて居ないですけども、お話しとしては承つて居ますので、検討してければと思ひます。

○会長

委員、お願ひします。

○委員

今のことも少し関係するかと思ひますけれども、いろいろこれまでの議論の中で、地域というキーワードが出て居ましたが、地域の最小単位としての家族というものもキーワードに入れておかないといけません。お父さん、お母さん、お子さん、あるいは中学校・小学校が一緒に誘導できるような施策といひますか、そういう仕組みみたいなものを取組も入れておかないと、やっぱり小中学生の時期のスポーツへの取組み意識がその後の興味関心の度合いを変えてしまうし、キーワードとして重要なキーワードではないかなと思ひますが、いかがでしょうか。

○事務局

おっしゃるとおりで、今回アンケートの中でも、小学生や中学生にご家族と一緒にスポ

一つする機会を増やしたいかと聞いたところ、小学生は「はい」が多くて、中学生は少ないと結果が出ております。年齢的・思春期とかそういったことを考えても、小学生は増やしたいと回答し、中学生はまあいいやと回答しているのかもしれませんが。家族とのかかわりについて、意識の変容をどういうふうに捉えていくか、どう育てていくかというのはすごく重要な視点だと思います。思春期独特の中学生が親を遠ざけるといふ、そういったところがちょっと難しいかもしれませんが、そういった親子で集まれる例えばイベントだとか講座だとか、そういう場所の新たな創出、そういうことも考えていくというのは、その計画に入れていければ、育てるところにもつながっていくのかなと思いますので、貴重なご意見だと思って承ります。以上です。

○会長

ありがとうございました。小学校、中学校の活動の場は、まずは課外活動、学校の中の部活動等が中心になると思います。ですので、スポーツ振興課としては、学校以外の活動の場、または小学生、中学生であっても学校の運動部活になじまない、またはある意味アーバンスポーツ系の子どもや、または運動・スポーツが苦手な学校の運動部ではやっていけない、そういう子たちが対象になるというのが1つの視点になるかと思います。先ほど紹介していただきましたけれども、じゃあ学校は現状のまま行くかというのと、そうでもなくなってきて、この後地域との連携というのが強くなってきますので、かなり意識して、それをどういうふうに受け取るかというのは、今回の計画の中に位置づけいく必要はあるかなとも感じています。

それでは、引き続き皆さんからいろいろご意見あれば頂きたいと思います。

○委員

先ほどからいろいろ話が出ていますが、障害者の方とかはあまり遠くに行くのも大変なので、身近なところの施設が利用しやすくなるといいかなと思います。施設としてもそうだし、やっぱりちょっとでも理解してくれる方がいると一緒に楽しめるので、そういう方が身近にいるといいかなと思っておりますので、地域の活用とか増加するかと思います。あと先ほどの健康ポイント制度の話なのですが、何もやっていない無関心の人たちをど

う向かせるかというところでは、健康ポイントという形ではなくてもいいと思うのですが、何かしら興味を持つために、最初のきっかけとして何かそういうものがあって、そこから始めるような、つながるといのもいいのかなと思いました。自分自身全然運動とかしていなくて、少し時間ができたところで一度やってみたらすごく楽しくて、その後継続して運動できていたりするので、きっかけづくりとして何かあるのはいいのかなと思います。

○会長

ありがとうございます。東京オリンピック・パラリンピックでレガシーということをおっしゃっていますので、やっぱり1つは障害者のスポーツというのをどういうふうに関係の中に開いていくか、展開していくかということがあると思います。それもやはりいろいろ案は出てくるのですけれども、やはり今回の計画にも欠かせない視点かなという意味であります。

○委員

私も先ほどのポイント制度のことでちょっと気になってはいて、とてもいい案だなと思っています。長く続けていく市はあまりないように感じてはいて、何年かやって、元やっていたよというところのほうが多かったです。府中市でもしきっかけづくりのためにやるのであれば、1年限定、2年限定という形で、3年限定とか、これは例ですけど、きっかけづくりというもので限定してやっていくのもいいのかなとは思いました。また、同じようにきっかけづくりで言うと、先ほどから連携という話が出ているのですが、市とトップチームと地域クラブとの連携をもっと深めていけば、今後スポーツを始めるとい方にとっては、いいきっかけづくりができていくのではないかなと思っています。以上です。

○会長

ありがとうございます。そのほかはいかがでしょう。

○委員

基本目標のところ、【そだてる】、【ささえる】、【する】、【みる】という項目があると思うのですけれども、これを【みる】、【する】、【ささえる】、【そだてる】の前の段階で、イベントか何かあったら、こういう新しい施設できましたよというところで、市民の方々が第一段階として「知る」という部分があるのかなと感じています。その上で、課題と対応の方向性の上から3番目の赤文字ですね。「情報を届ける工夫が重要」というところ。これ前の資料にもあったかと思うのですが、できるだけ情報をタイムリーに発信していくことが重要だと考えているとあったのですけれども、どのような媒体でどういう形で市民の方々に適切に情報を届けていくのかなというところが、課題でもあり、疑問にも思ったところで、紙媒体であったりだとか、市報であったりだとかすると、それこそ若者の世代の方たちというのは、あまりその情報に触れることが少ないのではないのかなと思っていて、どういう形で情報発信をしていくかというところをちょっとお聞きしたいところです。

○会長

ありがとうございます。情報発信ということについてですね。非常に重要なポイントになると思いますけれども、事務局から取りあえず対応を回答いただけますか。

○事務局

いろいろ周知していく方法としては、今まではホームページだとか広報紙だとか、どちらかという受け身の媒体を使うことが多かったのですけれども、できるだけこの先については、どっちかと言うと能動的に動けるような、例えばSNSだとか、それもただ載せるだけではなくて、自主的にお知らせをプッシュ型で出すような仕組みを検討するとか、そういったところは積極的にやっています。今、現に取り組んでいるもので、コロナ禍で体を動かすことが少なかった方々が動かすようにということで、府中30秒チャレンジという企画でスポーツ推進委員に動画を作ってもらって、発信したりですとか、様々な媒体で取り上げていただいたりもしているので、新たなデジタルコンテンツとかメディアを使ってやっていくということは、どんどん進めていきたいなとは思っています。ただ、その反面そういったものの苦手な方々、デジタルコンテンツが苦手な高齢の方々だとか、そういった方々にはやっぱり紙媒体というのは残していかなければいけないのだら

うなとも思っていますので、より広く伝えられるような方法は、今、新しい技術もいろいろ出てきているので、そういったところを研究しながら、逆にご意見頂きながら進めていければなどは思っています。

○創建

補足させていただきます。今のところ、資料3の7ページを御覧いただけますでしょうか。(7)で、市のスポーツ情報になるのですが、アンケート調査、問17を年代別にクロス集計したデータというのをお示ししております。左から2番目を縦に見ていきますと、各年代というのを横に見て、表の上の部分でどこから入手しているかの情報というのが、年代と選択肢と回答数、回答の割合というのが見えます。特に色の濃い部分というのが、横1行で見えていったときに、18歳29歳のところを例えば着目いただきますと、結論から言うと、入手していないが62.5%。10代、20代においては、6割ちょっとです。件数としては8件なので、統計的にこの数字をもってどうこうと言いつらいのですが、2番目は市のホームページ、駅前のいわゆるサイネージでSNSというのが続いて、それ以外はあまり回答が見られません。年代で横にこの表を見ていくと、その年代での回答の割合というのが見えていきます。

そういう見方が1つと、12の入手していないという列を縦に御覧ください。ここで着目していただきたいのが、下の段が割合になるのですが、着目していくと、10代、20代で入手していないが62.5、30代63.6、40代42.3、50代40.7と、入手していない割合というのが、年代を見ていくと下がっていきます。裏を返すと、年代が下がるほど入手していない人が多いと読み取ることができます。

また同様に選択肢の2番、「広報ふちゅう」を縦に見ていきますと、色が薄いというのは回答が少ないということなので、若い世代ほど「広報ふちゅう」はそこまで順位高く見ていません。ただ、60代以上だと逆に「広報ふちゅう」を見ている人が多いと読み取ることができます。なので、この辺をどう解釈していくかがポイントかなと思っています。例えば若い世代に関しては、入手していない人が多いのであれば、例えばトップチームと連携してとかSNSを活用する等です。ただ年代が上の方に関して言えば、「広報ふちゅう」の効果というのはまだまだあると捉えることができるので、1つこういう情報を、アンケ

ート結果の活用の仕方と捉えるのはあろうかと思えます。

また、ヒアリングの中でも出てきてはいたのですが、市の情報をどこまで発信するかというところと、トップチームが持つ発信力、影響力というのをどう活用していくかです。これもまた重要な視点かなと思っておりまして、若い世代ほどトップチームの認知度というのが高くなっているのです、トップチームと連携しながら、若い世代には何かイベント情報を発信するとか、高齢の世代に関しては、「広報ふちゅう」をより評価していくとかが思いつきます。

この辺というのが、皆さんの肌感覚の中でもご意見頂きたいところですし、年代によってヒットする媒体が異なるというのはデータから読み取れると認識しておりますので、例えば適切に情報を届けるのはどうしたらいいかの回答として、1つは年代ごとにメディアを変える選択肢というものはあるかもしれないですし、もうちょっとこうとかというのがあれば、まさにここでご意見・ご指摘頂きたいと考えておりますので、参考までに資料3のご紹介をさせていただきました。以上です。

○会長

ありがとうございます。今のクロス集計表の中で、見出しの10番にSNS、ツイッター、フェイスブック等という項目自体はあるのですけれども、これは市のほうから出しているツイッター情報、フェイスブック情報ということでしょうか。それとも、市民の方々の個人的なやり取りの中でのことなのでしょうか。今現在市の、例えばスポーツ振興課のほうからこういうSNSを使った情報発信というのは行っていますか。

○事務局

市の公式ツイッターですとかフェイスブックはあります。そこで発信している場合もあります。

○会長

なるほど。ただし市全体のということなのですね。

○事務局

課ごとに持っている場合もあるのですが、今、スポーツアカウントとしては持っていないです。全体の中に載っている状況です。

○会長

そこから情報を入手した人が、わずかなのだけどいることはいるということなのですね。情報発信に関して、いかがでしょうか、ご意見ありますでしょうか。

○委員

自治体のほうで今、盛んにやられているネーミングライツは考えていらっしゃるのでしょうか。例えばこの間のアンケートで、東芝とかサントリーさんのラグビーなど認知度が50%に満たないようなものがあつたのですけれども、市と企業のほうでどれぐらいの額でWin-Winになるのか分からないのですけれども、例えば東芝スタジアムとかサントリーアリーナとかそんな形でやっていくというのは検討されていますか。

○事務局

政策課という部署でネーミングライツですとか広告出してだとかというところについては、検討は数年前からしているところです。その中でやはりスポーツ施設とか文化施設というのは、そういった対象になりやすいところで検討を進めなさいというお話も出ているのですが、例えば市民球場でいうと、壁面広告なんかもうすでにやっているのですけれども、ネーミングライツ等については、まだ実施するまでは至っていなくて、ここ数年来大きな修繕とかをしていたので、その中でやっても効果として薄いのではないかというところもございませう。大規模な修繕をしている中で、工事やっけて人が来ないのに、きれいになっていない状態の中でやってもというところも様々理由もありつつ、検討継続という形で今いるので、ここ数年来ではそういった話は少し結論が出てくるかと思ひますが、今のところはまだやるという結論は出ていない状況です。

○会長 ありがとうございます。

先ほどから出ている施設をこれからいろいろ構築化のもう一回再建していくということ

がありますので、そことネーミングライツはおのずと関わってくることになるのではないかなと想像しています。

何かご意見ありましたら、いかがでしょうか。

○委員

とても興味深くいろいろ聞かせていただきました。健康ポイントというのはやっぱり関心があるところで、これが献血手帳みたいな感じで運用し、何か体を動かしてやっていてというのがいいのかなと思います。何年かで終わりではなくて、それをもうちょっと有効的に使えるような方法を考えていけばいいのではないかなと思います。

あとは、これずっと前から気になっていたのですけれども、府中市にゲートボール場が幾つあるのか、その数を知りたいのと、ゲートボール場はゲートボールをやる人だけしか使えないのでしょうか。そうでしたら、もうちょっと多方面で使えるようなものにできないのかなというのを常々考えておりました。

あとは資料3の分析についてです。女性が急にある時期になるとなぜ減少していくのだろうかというのが疑問です。やっぱり生活環境が変わってしまうのがちょうどこの年齢層だからかと思ったりもしているのですが、こういう人たちをもう一回なんとか体育館なりいろいろなスポーツに参加させていけばいいなと思います。

最後に、もう1つあるのですが、府中市ではいろいろなスポーツ、種まきはするのですが、その先を見据えた上でのスポーツの展開では今までなかったもので、そういうものこれからここへ行けばこれをやっているのだよというそういうものを、先につながった紹介をしていただくとありがたいなと思います。以上です。

○会長

ありがとうございます。3点ご意見頂いたと思うのですが、1点目、ゲートボール場については、事務局からどうですか。

○事務局

ゲートボール場につきましては、市内に大きく3カ所、全部で5面あるのだけれども、

白糸台北公園ゲートボール場というところ、あと新町ゲートボール場、西府ゲートボール場、その3カ所になっています。現在のご利用については、ゲートボールだけという形をお願いしているところです。今後ゲートボール人口がどうなっていくかということもありますけれども、どういった形で施設を活用していくかというのは検討していかなければいけないのだろうなというところがあります。そこだけではなくて、市のほかのそれこそテニスコート・野球場・プール等それぞれの施設を今後どういう活用・運用をしていくのかということは、スポーツ振興課としてというか市として考えていかなければいけないところと思っていますので、これについては計画の中で進めていければなと思っています。

2点目の女性のある一定の年齢になったところで下がってしまうというところの分析については創建からお願いいたします。

○創建

1つは資料3の5ページを御覧ください。お答えがちょっと難しくて恐縮なのですが、1つの見方として、アンケート調査の問15で、スポーツの実施状況、考え方というのを伺いしていきました。これを年齢、性別のトリプルクロス集計をしたところ、下の段が女性になります。女性の表になるのですが、このバーの一番上を見ていただくと、女性全体で、ちょっと色も薄くて見にくくて恐縮なのですが、26.2というのがバーの一番左側に来ているかと思えます。これが現在やっていないからするつもりもないよと読み取れる層です。女性全体で見ると、4分の1ちょっとの方が、やっていないしやるつもりもないという状況になっています。これが女性の中でさらに年代別で見ると、50代にはそういう無関心層というのが減っていくのですが、また60代にかけて増えていって、70歳以上になると38.7%、4分の1ぐらいだったのが4割ぐらい、いわゆる無関心層になってしまっているということが読み取れます。

この数字は男性と比べて、大きくは同じような傾向があるのですが、60代の男性よりもちょっと無関心層が多いという割合を見ていくと、何でというわけではないのですが、今やっていないしやるつもりもないという数字が伸びています。それがそのまま実施率につながってきてはいるのですが、意識としてもう完全に無関心層にシフトしていくということが、50・60・70代にかけて増えていっているのです。その中で本当に無関心層が

増えてしまっているというところに対しては、課題意識を持って何らかの対策が必要になってくるのかなと思います。

自由記述とかを見ていくと、これは男性が女性がという話ではないのかもしれないのですが、健康上の理由からもうそういうのは難しく、スポーツすることが必ずしも全てではないと思うので、例えば文化的な活動のほうにシフトするという選択肢も出てきているのかもしれないです。スポーツ推進の立場で見ると、無関心層が増えてしまっていることを課題と捉えながら、逆にそれぞれ場合によっては競技ではなくて、散歩もスポーツなのだよということを普及啓発していくことが、もしかしたらその無関心の増加を抑制できるかもしれないですし、ちょっとラジオ体操を一緒にしようということがもっと普及できれば、実施率というところにつながってくるかもしれないですし、感覚的にはそういう意識のところというのが1つの対策になってくるのかなというのは感じているところです。

○事務局

あと3点目に頂いたご質問のところ、長く続けられるような案内の仕方というか、ご提案の仕方というところについては、この計画の中でも未来につなげるということと、【ささえる】、【そだてる】というところにも関わるとは思いますけれども、どこにいけばどんなものやっているという、さっきの情報発信の話もありますけど、トータルで考えて計画の中に記載をして、府中発祥のスポーツやなんかも結構ありますし、新しいスポーツ、例えばポッチャにしても認知度を上げていって、よりにぎやかにしていくということも含めて、計画の中で含めて書いていければと思っています。以上です。

○会長

ありがとうございます。それでは、時間も押してきましたので、最後、皆様からまとめて何かご意見ありますでしょうか。それでは総括ですが、A3判の大きな紙ですね、その課題と対応の方向性に関しては、委員から1つ家族という視点を入れたほうがいいのではないかというご意見を頂きました。基本目標のところでは、【みる】、【する】、【ささえる】に加えて、今回は【そだてる】というところをしっかりと押さえていくという事務局からの提案もありました。また、やはりいろいろなスポーツ関係の団体の経営ということが欠か

せません。府中はトップチームが幾つもあるという、これは簡単に望んでも実現できない条件もありますし、またスポーツ以外でも非常に歴史が深く、いろいろな歴史的な遺跡等々があります。そういうのも深く関連づけてやっていく必要があるかなと考えます。そして、もう1つは情報発信です。これはもう今の時代となつては欠かせないということになりますので、年代別にちゃんと伝わる情報発信ということを積極的にやっていく。こういう点というのが今回のポイントになるかなと思っています。

よろしいでしょうか。それでは、その他です。事務局のほうから何かございますか。

○事務局

それでは、事務局から庶務事項についてご連絡をさせていただきます。令和3年度の第1回の協議会についてなのですが、当初令和3年の5月25日火曜日ということで予定させていただいておったのですが、事務局の都合によりその日に開催が難しくなつてしましまして、改めてこの場で委員の皆様にご予定、ご都合をお伺いいたしまして、日程調整をさせていただければと思います。代替りの日程なのですが、5月11日火曜日午後2時からとさせていただければと考えております。形式としましては、第1回ということもありますので、府中市本庁舎の北庁舎第1会議室で予定させていただいております。つきましては、皆様のご都合をご確認させていただいてもよろしいでしょうか。もし難しいという方がいらっしゃれば、お申し出をいただければと思います。

○会長

いかがでしょう。5月11日火曜日の午後2時からに変更したいというお話ですが、これお1人お1人確認しますか。それとも都合が悪い方だけ伺えばよろしいですか。

○事務局

都合が悪い方は申し出いただいてもよろしいでしょうか。

○会長

いかがでしょう。今、いらっしゃる皆様は大丈夫でしょうか。ありがとうございます。

○事務局

よろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは、令和3年度第1回協議会につきましては、5月11日火曜日、午後2時から本庁舎北庁舎第1会議室にて開催させていただきますこととさせていただきます。開催案内につきましては、また事務局より改めてご郵送させていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

事務局から庶務事項につきましては、以上でございます。

○会長

ありがとうございます。次回は具体的な計画が示されると考えていてよろしいでしょうか。

○事務局

はい。

○会長

次回からは具体的な計画について検討することになります。佳境に入ってきますので、ぜひ皆様、次回もよろしくお願いいたします。

それでは、確認ですけれども、次回は5月11日午後2時から開催ということにします。

それでは、本日はこれで散会することにしたいと思います。ありがとうございました。

以上